

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター

第6回国際学術シンポジウム

鉄と匈奴

遊牧国家像のパラダイムシフト

日時：2013年11月9日（土）13:00 開会

場所：愛媛大学メディアホール

13:00-13:15 開会の挨拶

13:15-13:35 「趣旨説明：鉄から描く遊牧民の歴史」白石典之（新潟大学）

第1部：基調報告

13:35-14:05 「ユーラシアにおけるアイアンロードの成立と展開」村上恭通（愛媛大学）

14:05-14:35 「漢代北方防衛線と鉄」森谷一樹（中国人民大学）

14:35-14:50 休憩

第2部：フィールド調査の成果

14:50-15:10 「モンゴル国ズーン・バイトラグ川流域の調査成果 - 日本 - モンゴル共同研究プロジェクトの成果 -」
L. イシツェレン・Ch. アマルトゥブシン・G. エレグゼン（モンゴル科学アカデミー考古学研究所）

15:10-15:50 「匈奴の鉄器」N. エルデネオチル（モンゴル科学アカデミー考古学研究所）

15:50-16:10 「匈奴の鉄生産」笹田朋孝（愛媛大学）

16:10-16:25 休憩

第3部：討論

16:25-17:25 討論「遊牧国家像のパラダイムシフト」

お問い合わせ先

愛媛大学 東アジア古代鉄文化研究センター

〒790-8577 松山市文京町3番 HP: <http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/>

Tel/Fax: 089-927-8391 Email: kotetsuAIC@gmail.com

入場無料・申込み不要



モンゴルでの調査風景（フレル・ウネグ2A遺跡、ホスティン・ボラグ遺跡、アウラガ遺跡）

主催：愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター、モンゴル環境考古学プロジェクト

後援：駐日モンゴル国大使館、モンゴル科学アカデミー考古学研究所、日本鉱業史研究会、
（一社）日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム

鉄と匈奴－遊牧国家像のパラダイムシフト－

シンポジウム開催にあたって

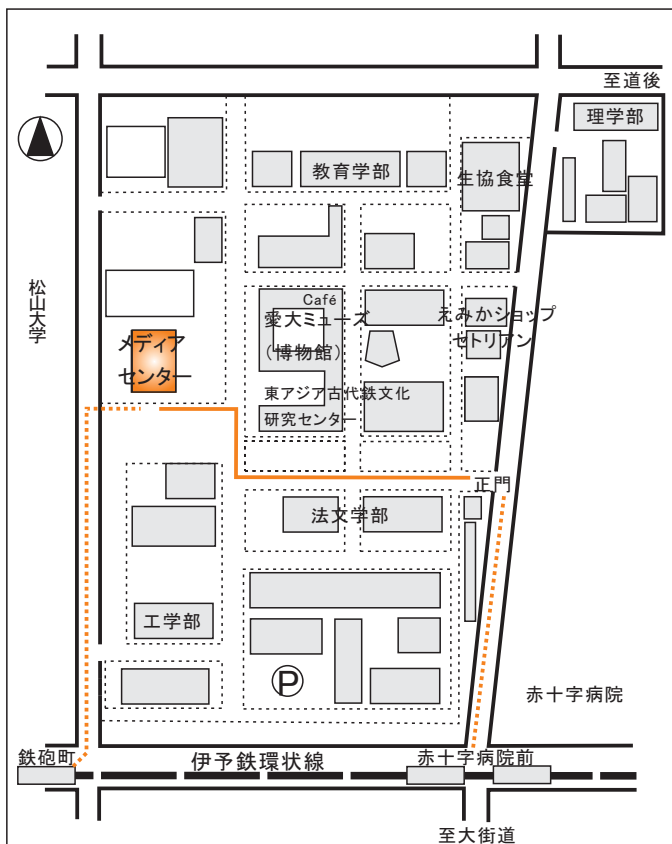
愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターは、モンゴル環境考古学プロジェクト（代表：白石典之 新潟大学教授／愛媛大学客員教授）と共に、「鉄と匈奴－遊牧国家像のパラダイムシフト－」と題し、第6回国際シンポジウムを開催いたします。

当センターでは、2011年にモンゴル科学アカデミー考古学研究所と研究協定を締結し、モンゴル国内で発掘調査などを実施してきました。とくにホスティン・ボラグ遺跡では、モンゴルでは初めての製鉄炉（匈奴時代（BC 209年～AD93年））の検出に成功しました（下写真）。匈奴の製鉄に関しては、『史記』や『漢書』などの中国の歴史書には記されておらず、遊牧国家像を書き換える大きな発見と言っても過言ではありません。

本シンポジウムでは、モンゴルや中国からの研究者に、こうした最新の調査成果を報告していただいたうえで、鉄から遊牧国家像を再検討していきたいと思っております。



ホスティン・ボラグ遺跡の調査（製鉄炉・炉壁・羽口）



愛媛大学（城北キャンパス）

【愛媛大学城北キャンパスへのアクセス】

1. 松山空港もしくは、松山観光港から、それぞれリムジンバスで「JR松山駅」下車。
2. JR松山駅から、城北キャンパスまで
 - i) 伊予鉄道市内電車（10分間隔で運行）の環状線（古町方面行き）で「赤十字病院前」もしくは「鉄砲町」下車、北へ徒歩約5分。
 - ii) タクシーの場合、約15分（約1500円）

○大学構内には、駐車場がほとんどありません。できるだけ、公共交通機関をご利用ください。

また、当日は愛媛大学祭を開催しており、混雑が予想されます。左のキャンパス案内図、もしくは大学HPでご確認のうえ、ご来場ください。

